

「2月も終わりを迎えます。もう、3月ですよ…。」

生徒指導通心
第34号

縁(えん)

妻ヶ丘中生徒指導部
令和5年2月24日発行



今週は、木曜日に祝日(天皇誕生日)が入り、一週間が早かったように感じます。また、22日(木)の昼休みには、生徒会が企画した「校内清掃ボランティア」が行われました。皆さんも知っているとおおり、妻ヶ丘中生徒会は、校内外のボランティア活動に積極的に取り組んでいます。

それでは、よく耳にする「ボランティア」という言葉について。いろいろな捉(とら)え方がありますが…

○ボランティア活動とは…

一般的には「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」

○活動の性格として…

「自主性(主体性)」「社会性(連帯性)」「無償性(無給性)」等があげられる。

~厚生労働省「ボランティアについて」より一部抜粋~

今回は、「卒業式を控えたこの時期に、自分達の手で学校をきれいにすることや「清掃活動などのボランティアがしたい」という意見をもとに、生徒会ボランティア担当(1ー1西村翠さん)が中心になり活動を行いました。当日は、通常の清掃では行き届かない場所を中心に活動を行ってくれたようです。参加してくれた生徒のみなさん、本当にご苦労様でした。この清掃ボランティアは、3月にも計画されているようです。今回参加できなかった生徒の皆さんも、次の機会に是非参加してみたいはいかがでしょうか。

さあ、いよいよ来週は3月。「1月(いちげつ)往(い)ぬる2月(にげつ)逃(に)げる3月(さんげつ)去(さ)る」と言われます。2月も、時間の流れが早く、毎日があっという間に過ぎてしまいました。3月は、もっともっと早いだろうなあと思います。「何もない一日も大切な一日」という言葉もあります。ありきたりかもしれませんが、一日を大切に、そして皆さんにとって、明日の一日も、幸せで充実した一日でありますように…。



★イヤなほうから幸運の矢が飛んでくる★

下の文は、少し前の生徒指導通信で紹介したことがある萩本欽一さんが書いた『人生にはチャンスが三度ある』より、ある一部分を抜粋したものです。



ある日、坂上二郎さんから電話がかかってきた。「もうみんなコンビになっちゃって、今、浅草に残ってるのは欽ちゃんと俺くらいしかないよ」って。

実は当時、一番コンビを組みたくなかったのが、二郎さんだったんです。なんで二郎さんが来たんだろう?って。一番来て欲しくない人、一番イヤだなんていうところから来たんだから。僕にとって、イヤだと思ふところから来たものに運があるっていうのは、考えてみたら、ここからはじまってるんですね。

二郎さんの何がイヤかという、笑いにしつこいんですよ。だから、決して二郎さんという人が嫌いということじゃないの。しつこいというのは、べつの言葉で言うと、おかしいんですよ。うまいからイヤなんだよね。

だから、人生にはたくさんイヤがあったほうがいい。みんな、いいことばかり探しすぎだよ。もっとたくさんイヤがないと。イヤなほうから幸運の矢というのは飛んでくる。イヤなところにこそ、運があるんですよ。

二郎さんは55号をはじめまで、浅草で15年苦勞してるんです。15年も苦勞してる芸人さんなんて、その当時でもいなかったですよ。どんなに長くかかっても、みんな10年くらいで有名になっていきましたもん。ためにためこんだその運を、二郎さんが55号に持ってきてくれたんです。

『人生にはチャンスが三度ある』萩本欽一著/ビジネス社

人は、いいことが起こることを望むのは当たり前で、悪いことや、イヤなことが起こることを期待する人など誰もいませんね。また、現実には、いいことばかり長くは続きません。しかし、誰の人生にも、山もあれば谷もありますが、不運や不幸の後には、必ず幸運や幸せが訪れます。

大事なことは、不運なこと、イヤなことが起きた時の対処法。イヤなことを嫌えば嫌うほど、イヤなことが続くて起こるのが「引き寄せの法則」です。イヤなことが起きたら、「ああ、そろそろいいことが起きるぞ!」と、不平や不満、愚痴を言わず、淡々と努力を重ねると、必ず幸運はやってきます。イヤなことが起きれば起きるほど、そこには運がたまっているのです。

「イヤなほうから幸運の矢が飛んでくる」。イヤなことを嫌わず、ニッコリ笑って受け止めたいたいですね。

